大津市 Education center 教育センター
所報
No.208
令和３年１０月 発行
〒520-0814
滋賀県大津市本丸町６番５０号
電話　077−522−1910
Ｆａｘ　077−522−2297

笑顔輝く大津の教育
～客体から主体へ～

教育長　島崎 輝久

今夏、開催された東京オリンピック・パラリンピック。新型コロナウイルス感染症がなければ、もっと日本中が熱気に溢れていたかと思うと少々残念でしたが、それでも、持てる力を出し切って躍動するアスリートの姿に、たくさんの感動をいただきました。その中で、私は、滋賀県出身のアスリート、パラトライアスロンに出場された宇田秀生さんに注目していました。

平成３０年、私は当時在職していた中学校で、「子どもたちに夢と希望をもたせたい」と、いろいろな壁を克服し活躍されている大津市・滋賀県ゆかりのオリンピック選手やシンガーソングライターを招いて、講演会やコンサートを開催しました。１１月にお招きしたのが、当時、東京パラリンピックを目指されていた宇田秀生さんでした。

気さくな宇田さんは、保健体育の授業で生徒と一緒に汗をかき、その汗も乾かないうちに今度は体育館で、トライアスロン用の自転車の乗り方を実演しながら、東京パラリンピックにかける思いを生徒、教職員、保護者等約900人を前に語ってくださいました。結婚間もない幸せの絶頂期に仕事中の事故で片腕をなくされたことなど、その生き様は涙なしには聴けないのですが、宇田さんには暗さや嘆きが　微塵もありません。終わりには　奥さんとお子さんを紹介され、家族の絆に感謝しつつ「東京でパラトライアスロン日本代表になる。」と力強く宣言されました。「どんな時でも前向きに」講演テーマのとおりに、その場にいた誰もが宇田さんから「生きるエネルギー、目標に向け努力するエネルギー」をもらった講演会でした。

東京パラリンピック競技当日、テレビの前で手に汗握って応援しました。自転車とランで強烈に盛り返し、見事に銀メダル獲得。宇田秀生さん、本当におめでとうございました。号泣される姿に３年前がオーバーラップし、もらい泣きしながら、今回もたっぷりエネルギーをいただきました。

当時の生徒の感想から（一部抜粋）

○・・・片腕がなくても、できることがたくさんあることを学びました。宇田さんが話されていたように、周りからの視線が冷たいと自分も嫌だから、そのような人がいたら、温かい目で、困っていたら力になろうと思いました。「慣れたら普通になる」という宇田さんの言葉は、本当にそのとおりだけれど、すごいなあと思いました。

○・・・テレビで見たことがあったので、自分の学校にきてくださり、誠にうれしくありがたく思いました。そして前向きな生き方に感動しました。・・・私にも大きな夢があります。その夢を必ず叶えたいと思います。

話は変わり、中学３年生の進路選択が重要になるこの時期、少し前に、県立高等学校の校長先生と懇談した機会に、「全般的に、高校生になったら○○に打ち込もう！頑張ろう！と意欲満々に入学する生徒が減り、何となく、友だちがいるからなど受身な生徒が増えたように感じる。これは、高校３年間でもあまり変わらず、なかなか主体になりきれずに客体のまま、大学や社会等へ進むことが課題だ。また、何となくという姿勢は、やりがいが見つからないなどを理由に中途退学することにもつながり、マイナスも少なくない」という話を聞きました。

本来、様々な行事や集団での活動を通して、子どもが「自分が主体（主人公）になる場面を見つける」ことが期待される２学期。１０月になって緊急事態宣言は解除されたものの、学校生活すべてが元通りとはいきません。自分の夢が見つけにくく、自分の思いを表しにくい混迷の時でも、私は、子どもたちが受身（客体）にならず、宇田秀生さんのように「どんな時でも前向きに」主人公（主体）として、自分の目標にチャレンジしてくれることを大いに期待しています。そんな主人公が一人でも多くなるように、私たちおとなは、そっと見守りそっと支えていきたいものです。

令和３年度　夏に実施した研修を紹介します。

夏季休業期間中の研修は、コロナ禍にありながら、主体的に学ぼうとする先生方の思いに少しでも応える研修となるよう、感染症対策を講じながら対面やオンラインで実施しました。対面の研修では、生涯学習センターのホール（定員500人）を使用するなど、密を避け、会場収容人数の3割程度、もしくはそれ以下の人数での開催としました。

全26講座、のべ1402人の参加がありました。 一部、紹介します。

教師の心と技を磨く全体研修会

講師：木村　泰子	８月４日 生涯学習センターホール
大阪市立大空小学校　初代校長	

※午前中に映画「みんなの学校」を上映。

〇受講者の感想

＊午前中に映画を見て、午後すぐに木村先生のお話を直接聞くことができ、心にとても響きました。子どもを主語に考え、学校のあたりまえを問い直していきたいです。

＊木村先生の人柄や雰囲気がとても温かく、お話に心が引き込まれ、あっという間に時間が過ぎていました。肩肘張らずに周りの先生方とよく話し、チームで子どもたちに関わっている意識を忘れず、一人一人と向き合っていきたいです。

＊「やりなおし」という言葉とエピソードがとても印象に残りました。やり直せる安心があり、一人一人の居場所が全員にあるのだと感じました。

＊子どもたちの顔、教職員の顔、地域の人、我が子の顔など、思い浮かぶ姿が多くありました。教師としてのみならず、人としての心を見直す機会となり貴重な時間でした。人と人とのつながり、信頼関係を大切にしていきたいと改めて思いました。

特別支援教育全体研修会

講師：別府　悟	７月 30 日 生涯学習センターホール
岐阜大学　教授	

※大津市子ども発達相談センターと大津市教育相談センターと合同開催

講師の別府　悟教授とオンラインでつなぎ、勤務校でも受講できるようにしました。

自閉スペクトラム症の児童の心の発達についてご講義いただきました。

〇受講者の感想

＊オンラインでも別府先生のお話がとてもわかりやすかったです。具体的なエピソードを交えてお話していただき、担当する子どもたちに今後気を付けていくべきことを整理することができました。

＊自閉スペクトラム症のある生徒との関わりで悩んでいたので、よい学びになりました。コミック会話（視覚的認知を生かした支援法）はなるほどと思いました。2学期から今日学んだことをたくさん実践していきたいです。

自殺予防研修（若手教員の生徒指導力向上研修・教師の心と技を磨く研修３）

講師：　阪中　順子	臨床心理士 学校心理士スーパーバイザー	８月１９日	生涯学習センターホール
講師：　新井　肇	関西外国語大学　教授	８月２０日	

特に夏休み明けに注意が必要なことから、子どもの命を守る研修を実施しました。

〇受講者の感想

＊思春期を迎えたくさんの心の葛藤を抱える中、つらいときに「つらい」と言える、ちょっとしたことでも話してみようと思える、その関係をしっかりと築いていきたいです。

＊事例やロールプレイを交えながらの話で、自分事として考えることができました。2学期から子どもたちと関わっていく中で、話をよく聞き、また子どもたちの言動にアンテナを高く張り、一人一人に寄り添っていきます。

GIGAスクール研修（教職２年次研修）

講師：指導主事	７月２９日 膳所小学校
学校教育課　学校ICT支援室	８月　２日 皇子山中学校

「MetaMoji　ClassRoom」を使った演習や１学期の実践交流を行いました。

タブレットを使った授業づくり研修の様子

〇受講者の感想

＊実践をたくさん見せていただいたおかげで、機能やノートの作り方の工夫がよくわかりました。効果的な学習になるように目的に合わせて使っていきたいです。

＊ICTはとても便利ですが、学級の基盤があってこそだと思いました。さらにお互いを思いやるクラスになるように学級づくりに力をいれ、その上で今日学んだICTのことを実践していきたいです。

＊同期の実践を見たことでとても刺激を受けました。学級経営を大事にしながら、学習に応じて積極的に取り入れていきたいです。

初任者研修（幼・小・中）

講師：オーパル職員	８月５日 オーパル(雄琴)
オーパルオプテックス株式会社	

幼稚園・小学校・中学校の3校種の初任者で研修を行いました。午前中はカヌーに乗り、ヨシ帯観察やカヌーリレー等を行いました。午後は、校種ごとにわかれて体験活動について考えました。

カヌーに乗ってヨシ帯観察に行く様子

〇受講者の感想

＊幼稚園の視点、中学校の視点と、自分にはなかった視点から考えることができ、とても幅が広がりました。学習のねらいに沿って計画し、多角的な視点から考えたいです。

＊初めてびわ湖に出ました。カヌーに乗って見たびわ湖はキラキラしていました。体験学習の大切さを実感しました。また同じ校区の幼小中の先生同士で集まり、交流することができたので、今後も校種を越えて連携したいです。

ミドルリーダー研修

講師：　高木　悟	学校支援アドバイザー	第１回	教育センター 第２研修室
講師：　西村　喜雄	長等小学校　校長	第２回	

今年度の受講生は、小学校7名、中学校3名、計10名。

☆　第1回「ミドルリーダーに期待すること　その役割と活動」

☆　第2回「ミドルリーダーによるカリキュラム・マネジメント」

〇受講者の感想

＊学校全体を見渡して自分自身が役割を自覚し、どう動くべきかよく考えることが大切であると学びました。

＊カリキュラム・マネジメントの視点は、学校経営の中核であると感じました。

等、受講生自らの気持ちを引き締めるような思いが書かれていました。

今後は、初任者研修での示範授業や、講師となって講義をしていく予定です。

若手教員育成学校園訪問実施しています！

経験年数が2～5年次と、臨時的任用の先生方を対象に、幼稚園、小学校、中学校からの要請に応じて学校園訪問を実施しています。この事業は、より確かな保育・授業づくり、学級づくりを目指し、市内の若手教員の教師力向上のために実施しているものです。前期は31校園、延べ64人の先生方について訪問しました。保育や授業を参観する中で指導内容や指導方法について助言及び相談を行い、若い先生方を支援しています。学校園訪問の要請は年間を通して受け付けています。後期もご活用ください。

大津のキラリ☆みいつけた

【若手教員の頼もしさにほっこり！】

　2020年度より小学校4年～中学校3年の児童・生徒用にタブレット端末が配備されたこともあり、市内の小・中学校で教育の情報化は進んできたように感じます。

　若手教員の訪問でも、教材の提示にタブレット端末を使う例や、児童生徒が端末を操作し、ノートのように使いこなしている姿を見かけることが少なくありません。そして、各学校の情報担当者の中には、5年次までの若手教員もいます。学校全体の ICT に関する研修も任され、同僚の先生がその若手の先生を頼りにしている声も多く聞かれます。若手教員のがんばりが学校や大津市の教育に貢献していることに頼もしさを感じました。

ちょっぴり
ほっこり
エピソード

第７２回
大津市児童生徒科学作品展並びに発明工夫作品展

審査をしている様子

　今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら作品展示は行わず、審査のみとなりました。

　審査当日には、市内各小・中学校より科学作品175点、発明工夫作品31点が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろいで、審査員は一つ一つの作品を丁寧に審査していました。この作品展が、子どもたちの科学的な探究心の高まりにつながる機会になればと願っています。

『貸出図書紹介』コーナー

「支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉」

特別支援教育ネット代表　小栗　正幸　監修　講談社

「話が通じない子」「聞く耳をもたない子」「暴力や暴言が止まない子」「いじめ、不登校に苦しむ子」、みなさんの近くにそんな子はいませんか？子どもたちの話に耳を傾け、共感をもって受け止める「傾聴・受容」の対応の大切さは、もう十分に周知されてきましたが…。それだけではうまくいかない子がいるのが現実です。では、どうすれば？

**　この本には、支援や指導のむずかしい子との対話のきっかけを作る『魔法の言葉』が、イラストでわかりやすく紹介されています。今年度の夏の研修でご講演いただいた小栗先生の著書。子どもの心に響く対話術を、今すぐ試したくなる一冊です。**

教育センター図書をご活用ください

教育センターでは授業づくりや、園児・児童生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。